



Title	補助動詞「やる・もらう・くれる」について
Author(s)	紙谷, 栄治
Citation	待兼山論叢. 文学篇. 1975, 8, p. 1-18
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/47747
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

補助動詞「やる・もらう・くれる」について

紙 谷 栄 治

一

「やる・もらう・くれる」という語は、授受の実質的な意味をあらわす動詞として使われるとともに、補助動詞として恩恵の授受をあらわすためにも使われる。さらに補助動詞としての「やる・もらう・くれる」は相互に承接することによって、三者四者の間での複雑な恩恵の関係を的確に表現することができる。

これらの問題については、すでに松下大三郎・佐久間鼎・金田一春彦・鈴木重幸・宮地裕・北原保雄・豊田豊子の諸氏などのすぐれた研究があり、⁽¹⁾あらたにつけ加えることも少ないのであるが、本稿ではこれらの語の補助動詞としての用法をその相互承接を中心として検討を加えたい。

二

最初に「やる・もらう・くれる」が補助動詞として、相互の間で承接しないで用いられる場合について、その意味

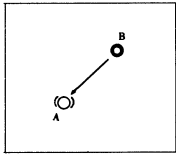
を概観することにする。そのためにまずそれぞれの語の意味をいくつかの要素に分析して考えることにする。その要素としては、構文上の観点から「主語」、恩恵の授受の観点から「恩恵を与えるもの」と「恩恵を受けるもの」、およびこれらの補助動詞の直前にくる動詞（動詞に使役の助動詞「(さ)せ」が下接したものを含める）のあらわす動作の主体（以下簡単に「上接動詞の主体」とよぶ）の四つをあげることにした。

そのうち前三者は説明するまでもないが、最後の「上接動詞の主体」をとりあげたのは、これらの補助動詞相互の間の承接を説明するために必要であると考えたからである。また「上接動詞の主体」をとりあげながら、その受け手をとりあげなかったのは、「やる・もらう・くれる」に上接する動詞には、自動詞も含まれる（黙ってやる（もらう・くれる））などで、受け手をたてずに、「恩恵を受けるもの」に含める方が適当と考えたからである。

また、これらの補助動詞を図解するときには、右にあげた要素を、主語は()印で、「上接動詞の主体」は◎印で、恩恵の授受は↓印で、「恩恵を与えるもの」と「恩恵を受けるもの」とはそれぞれ上下に分けて○印であらわすことにする。なお◎印は○印を兼ねている。

右にあげた要素をつかって、これらの補助動詞の意味を述べ、あわせて図示すると次のようになる。

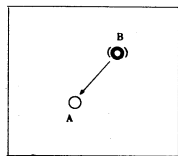
〔〜でもらう〕



上の図のように、Bは「恩恵を与えるもの」であるとともに「上接動詞の主体」であり、Aは「恩恵を受けるもの」であるとともに主語である。

Aが話し手または話し手側の者（二・三人称のいずれであっても。以下同じ）のときは、Bに制限はないが、Aが話し手側でない者（二・三人称のいずれであっても。以下同じ）のときは、Bには話し手

および話し手側の者はこないのが普通である。話し手側の二・三人称とは、それぞれ話し手が自分の子をさして「おまえ」「この子」などという場合であり、話し手側でない二・三人称者とは、「あなた」「あの方」などという場合である。
〔～てくれる〕



上の図のように、Bは「恩恵を与えるもの」であり、「上接動詞の主体」であり、主語でもある。Aは「恩恵を受けるもの」である。

Bに話し手がくることはない。またBが話し手側のものであつて、かつAが話し手側でない者の場合にも「～てくれる」を用いることはできない。

(話し手が自分の子供に) 「おまえがあの方に書いてくれたのか。」

(話し手が自分の子供をさして) 「この子があなたに書いてくれたのですか。」

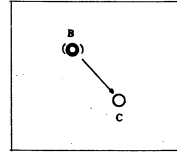
などとは普通いわない。この場合には「～てやる(あげる)」が用いられる。

反対にA・Bがともに話し手側のものであるとき、またはA・Bがともに話し手側でない者の場合、またはAが話し手側でBが話し手側でない者の場合は「～てくれる」を用いることができる。

その場合、Aが二・三人称の者であれば、BがAに恩恵をほどこすことを、話し手が自分に対する恩恵としてとらえていることをあらわす。つまり、この話はずねに話し手が恩恵の授受に参与していることをあらわしているということが出来る。

〔～てやる〕

Bは「恩恵を与えるもの」であり、「上接動詞の主体」であり、主語でもある。Cは「恩恵を受けるもの」である。



Cには話し手はこない。またCが話し手側の者であって、かつBが話し手側でない者の場合もやはり「してやる」を用いることはできない。

(話し手が自分の子供をさして) 「あなたがこの子に書いてやったのですか。」

(話し手が自分の子供に) 「あの人がおまえに書いてやったのだよ」

などとは普通いわない。

反対にB・Cがともに話し手側であるか、ともに話し手側でない者の場合、またはBが話し手側の者であって、Cが話し手側でない者の場合には「してやる(あげる)」を用いることができる。

なお、右に述べたところから明らかのように、恩恵を与えるものと受けるものが共に話し手側であるか、共に話し手側でない者の場合には、「してやる」と「してくれる」が共につかわれる。

「AさんはBさんに書いてやった(書いてくれた)。」

(自分の二人の子供について) 「この子があの子に書いてやった(書いてくれた)。」

この場合の「してやる」と「してくれる」を比べると、「してくれる」は「に」であらわされる「恩恵を受けるもの」のほかに、話し手にも恩恵が及ぶ点が「してやる」とは違っている。

もっとも、主語の「恩恵を受けるもの」に対する動作によって、話し手も恩恵をうけることをより明確にあらわすためには、「してやってくれる」を用いることができる。この場合には敬語形「して(さし)あげてくれる」をつかうことによって、恩恵をうける者に対する敬意をあらわすこともできる。

また「してやる」と「してくれる」を相互承接の点から比較すれば、「やる」には「やる・もらう・くれる」が下接

することができるのに対し、「くれる」の後にはいずれも下接することができない点で異っている。これについては後述する。

三

前章では補助動詞としての「やる・もらう・くれる」が単独で用いられた場合についてみてきたのであるが、この章ではそれらの語の相互承接について考えてみる。これらの語が相互に承接する場合には、「てやってくれる」のような二語の連結、「てもらってやってくれる」のような三語の連結が可能である。四語以上の連結は実際には用いられないだろう。そして、二語三語の連結の場合にはそれぞれ三者の間四者の間の恩恵の授受の関係があらわされるのである。このような相互承接によってできる連結は、恩恵の授受の複雑な関係を端的にあらわすことができるためか、三語の連結のような複雑なものでもかなり用いられるようである。

これらの相互承接によってできる連結の個々の説明に入る前に、可能なすべての連結を表にまとめておくことにする。(第一表)

第一表は、後の図解に便利なように、単独の場合と二・三語の連結の最後にくる「やる」を第Ⅳグループとし、同じく「もらう」「くれる」を第Ⅴグループとし、そこからさかのぼって「もらう」「やる」「もらう」の順にそれぞれ第Ⅲ・Ⅱ・Ⅰグループとして整理したものである。

この表にあげた二十組は、「くれる」が最後にしかこないことを考慮に入れたうえで機械的に三語までのすべての連結をつくり、その中から実際には用いられないと思われる「やってやってやる」の連結を除いたものである。これら

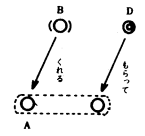
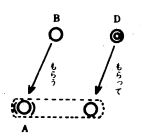
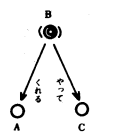
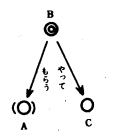
(第一表)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
もらって	もらって		もらって	もらって																	I
やって		やって			やって	やって	やって	やって			やって										II
	もらって	もらって	もらって	もらって	もらって	もらって			もらって	もらって		もらって	もらって	もらって							III
やる	やる	やる					やって	やって	やって	やって	やる	やる			やって	やって	やる				IV
			くれる	もらう	くれる	もらう	くれる	もらう	くれる	もらう			くれる	もらう	くれる	もらう		くれる	もらう		V

の連結の中には実際につかわれない不自然なものも含まれているが、その連結の中の一語または二語を敬語形(「やる」「もらう」「くれる」はそれぞれ(「さし)あげる」「いただく」「くださる」)にかえることによつて不自然さがなくなる。しかしこの点については、本稿ではその詳細を明らかにできないままで終っている。

上の表をみると、これらの連結は基本的には「してもらってやる」「してやってもらう(してやってくれ)」「してやってくれ」「してもらってもらう(してもらってくれる)」の二語の連結の組み合わせから成り立っていることがわかる。

次に第一表であげた連結を前章の方法で図式化し、その例文と意味とをあわせて表にまとめることにする。なお表の中の○印は同一人物であることをあらわしている。

7	6	5	4
<p>してもらってくれる</p>	<p>してもらってもらう</p>	<p>してやってくれる</p>	<p>してやってもらう</p>
 <p>右欄の傍線部分 書いてもらってくれませんか。</p>	 <p>(AがBに)私(A)はあなた(B)に英語の手紙を書いてほしいのですが、あなたが忙しくて無理でしたら、どうか誰か英語の得意な人(D)にたのんで書いてもらっていただけませんか。</p>	 <p>右欄の傍線部分 書いてやってくれませんか。</p>	 <p>(AがBに)Cさんは英語で手紙を書く必要ができたのですが、Cさんは英語ができません。あなた(B)は英語が得意ですから、Cさんのために書いてやってもらえませんか。</p>
<p>右欄の傍線部分 BはAに恩恵を与える。</p>	<p>Dは上接動詞の主体であり、その動作によってAがDから恩恵を受けるように、BはDにはたらきかける。またそのことによってAはBから恩恵を受ける。</p>	<p>右欄の傍線部分 BがAに恩恵を与える。</p>	<p>Bは上接動詞の主体であり、その動作によってCに恩恵を与える。そのことによってAはBから恩恵をうける。</p>

<p>11</p> <p>してもらってやってくれる</p>	<p>10</p> <p>してもらってやってもらう</p>	<p>9</p> <p>してやってやる</p>	<p>8</p> <p>してもらってやる</p>
<p>右欄の傍線部分 書いてもらってやってくれませんか。</p>	<p>せんか。 (AがBに) Cさんは英語で手紙を書く 必要ができたのですが、Cさんは英語が できません。そこであなた(B)が誰か 英語の得意な人(D)に頼んで、Cさん のために書いてもらってやってもらえま</p>	<p>んで書いてやってあげましょう。 (BがCに) あなた(C)が私(B)に Eさんのために英語の手紙を書いてやっ てもらいたいと言われるのなら、私は喜</p>	<p>らってあげましょう。 (BがCに) あなた(C)は私(B)に 英語の手紙を書いてほしいと言われるの ですが、私は忙しくてできません。誰か 英語の得意な人(D)に頼んで書いても</p>
<p>右欄の傍線部分 BがAに恩恵を与える。</p>	<p>Dは上接動詞の主体であり、その動作に よってCがDから恩恵を受けるように、 BはDにはたらきかけることよってC に恩恵を与える。またそのことよって AはBから恩恵をうける。</p>	<p>Bは上接動詞の主体であり、その動作に よってEに対して恩恵を与える。またB はそのことよってCに恩恵を与える。</p>	<p>Dは上接動詞の主体であり、その動作に よってCはDから恩恵をうける。またB はDにそのことをはたらきかけることに よってCに恩恵を与える。</p>

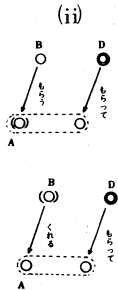
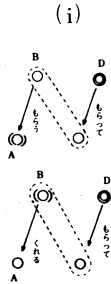
15	14	13	12
<p>してやっってもらってくれる</p>	<p>してやっってもらおう</p>	<p>してやっけてやっけてくれる</p>	<p>してやっけてやっけてもらう</p>
<p>右欄の傍線部分 書いてやっってもらってくれませんか。</p>	<p>（AがBに）Eさんは私（A）に英語の手紙を書いてほしいと言われるのですが、私は忙しくてできません。そこであなた（B）の友人に英語の得意な方（D）がいれば、その人に頼んで書いてやってもらっていただけませんか。</p>	<p>右欄の傍線部分 書いてやっけてあげてくれませんか。</p>	<p>（AがBに）Cさんは私（A）に、Eさんのために英語の手紙を書いてやってもらいたいと言われるのですが、私は忙しくてできません。よろしければあなた（B）がEさんのために書いてやっけてあげてもらえませんか。</p>
<p>右欄の傍線部分 BはAに恩恵を与える。</p>	<p>Dは上接動詞の主体であり、その動作によつてEに恩恵を与える。そのことによつてAはDから恩恵を受ける。またBはそのことをDにはたらきかけることによつて、AはBから恩恵をうける。</p>	<p>右欄の傍線部分 BはAに恩恵を与える。</p>	<p>Bは上接動詞の主体であり、その動作によつてEに恩恵を与える。またBはそのことによつてCに恩恵を与える。以上のことによつてAはBから恩恵を受ける。</p>

<p>19</p> <p>してもらってもらってやる</p>	<p>18</p> <p>してやってもらってやる</p>	<p>17</p> <p>してもらってもらってくれる</p>	<p>16</p> <p>してもらってもらってもらう</p>
<p>あがましよう。</p> <p>(BがCに) あなた (C) は私 (B) に英語の手紙を書いてほしいと言われるのですが、私は忙しくてできません。Fさんは英語がお得意ですが、私はFさんと親しくありませんから、Fさんの友人Dさんに頼んで書いてもらっていただい</p>	<p>めに書いてやつてもらってあげましよう。</p> <p>(BがCに) あなた (C) は私 (B) にEさんのために英語の手紙を書いてやってもらいたいといわれるのですが、私は忙しくてできません。しかし私は誰か英語の得意な人 (D) に頼んでEさんのために書いてやつてもらってあげましよう。</p>	<p>右欄の傍線部分</p> <p>書いてもらっていただいでくれませんか。</p>	<p>(AがBに) 私 (A) はFさんに英語の手紙を書いてもらいたいのですが、私はFさんと親しくありません。そこであなた (B) からFさんの友人Dさんに頼んで、Fさんに書いてもらっていただいで</p>
<p>Fは上接動詞の主体であり、その動作によつてCはFから恩恵を受ける。またDがそのことをFにはたらきかけることによつて、CはDから恩恵を受ける。さらに以上のことをBがDにはたらきかけることによつてBはCに恩恵を与える。</p>	<p>Dは上接動詞の主体であり、その動作によつてEに恩恵を与え、そのことによつてCはDから恩恵を受ける。またBはそのことをDにはたらきかけることによつてCに恩恵を与える。</p>	<p>右欄の傍線部分</p> <p>BがAに恩恵を与える。</p>	<p>Fは上接動詞の主体であり、その動作によつてAはFから恩恵を受ける。またDがそのことをFにはたらきかけることによつてAはDから恩恵をうける。さらに以上のことをBがDにはたらきかけることによつて、AはBから恩恵をうける。</p>

前章では二語および三語の連結について説明したが、この章では前章でとりあげた「してもらってもらう（してもらってくれる）」のもう一つの意味について考えてみる。たとえば次のような例である。

（AがBに）あなた（B）は私（A）に英語の手紙を書いてほしいと言われるのですが、私は忙しくてできません。どうか他の英語の得意な人（D）に頼んで書いてもらってもらえ（書いてもらって）くれませんか。

これを図示すると次の上欄のようになる。なお、前章の「してもらってもらう（してもらってくれる）」の図を参考として下欄に掲げる。



四

20	<p>してもらってやってやる</p>		<p>（BがCに）あなた（C）はEさんのために英語の手紙を書いてやってもらいたいと言われるのですが、私（B）は忙しくてできません。しかし私は誰か英語の得意な人（F）に頼んで書いてもらってやってあげましょう。</p>	<p>Fは上接動詞の主体であり、その動作によってEが恩恵をうけるように、BはFにはたらかかせる。そのことによつてBはEに恩恵を与える。以上のことによつてBはCに恩恵を与える。</p>
----	--------------------	--	---	---

右の図で明らかかなように、前章の場合 (ii) の図) には、D が上接動詞の主体であり、その動作によってAが恩恵を受ける。またBがそのことをDにはたらきかけることによって、AはBから恩恵を受ける(またはBがAに恩恵を与える)という関係が成り立っていた。ところが、この章で述べようとすると(i)の場合には、Dは上接動詞の主体であり、Dの動作によってBが恩恵を受ける。さらにBがDから恩恵をうけることが、AがBから恩恵を受ける(またはBがAに恩恵を与える)ことになるという関係をあらわす。

次にもう一例あげることにする。(i)はこの章の例、(ii)は前章の例である。

(i) あいにく釣銭がありません。お手数ですが、どなたかに頼んで両替してもらっていただけませんか。(あなたが誰かに頼んであなたのお金を両替してもらった上で、それを私に払ってくださいの意)

(ii) 私は小銭で払わなければいけないのですが、あいにく小銭をもっていないません。もしあなたが私に両替してくださいることができるならば、私は忙しくて手がはなせませんので、お手数ですが、私のかわりにどなたかに頼んで両替してもらっていただけませんか。(あなたが私の代りに誰かに頼んで、その人に私の金を両替してもらって

一			もらって	もらう
二			もらって	くれる
三	やって		もらって	もらう
四	やって		もらって	くれる
五			もらって	もらう
六			もらって	くれる

(第三表)

てくださいの意)

この章でとりあげた「〜てもらってもらう(〜てもらってくれる)」を含むすべての連結は上の表のとおりである。

これらの連結にも不自然なものもあるが、連結の中の一語か二語が敬語形になったものは普通に使われる。

次に前章にならって、その図解・例文・意味を表にまとめて

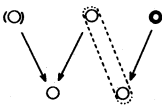
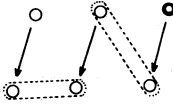
みる。この表では参考のために、前章にあげた連結のうち「～てもらってもらう（～てもらってくれる）」を含むものすべてについて検討し、この章の意味でつかわれることのないものには*印を付して区別した。

(第四表)

<p>一</p> <p>～てもらってもらう</p>		<p>(AがBに) あなた(B)は私(A)に英語の手紙を書いてほしいと言われるのですが私は忙しくてできません。どうか誰か別の英語の得意な人(D)に頼んで書いてもらってもらえませんか。</p>	<p>Dは上接動詞の主体であり、Dの動作によってBが恩恵を受ける。そしてBがDから恩恵をうけることがAがBから恩恵をうけることになる。(第二表6参照)</p>
<p>二</p> <p>～てもらってくれる</p>		<p>右欄の傍線部分 書いてもらってくれませんか。</p>	<p>右欄の傍線部分 BがAに恩恵を与える(第二表7参照)</p>
<p>三</p> <p>～てやってもらってもらう</p>		<p>(AがBに) あなた(B)は私(A)にEさんのために英語の手紙を書いてもらいたいと言われるのですが、私は忙しくてできません。誰か別の英語の得意な人(D)に頼んで書いてやってもらっていただけませんか。</p>	<p>Dは上接動詞の主体であり、DのEに対する動作によってBが恩恵を受ける。さらにBがDから恩恵を受けることが、AがBから恩恵をうけることになる。(第二表14参照)</p>

<p style="text-align: center;">*</p> <p style="text-align: center;">してもらって もら</p>	<p style="text-align: center;">六</p> <p style="text-align: center;">してもらって もら</p>	<p style="text-align: center;">五</p> <p style="text-align: center;">してもらって もら</p>	<p style="text-align: center;">四</p> <p style="text-align: center;">してや してもら もら</p>
			
	<p style="text-align: center;">右欄の傍線部分</p> <p>書いてもらっていた書いてくれませんか。</p>	<p>（AがBに）あなた（B）は私（A）に英語の手紙を書いてほしいと言われるのですが、私は忙しくてできません。Fさんは英語がお得意ですから、Fさんの友人であなともご存知のDさんに頼んで書いてもらっていたいてもらえませんか。</p>	<p style="text-align: center;">右欄の傍線部分</p> <p>書いてやってもらってくれませんか。</p>
<p style="text-align: center;">（第二表16・17参照）</p>	<p style="text-align: center;">右欄の傍線部分</p> <p>AはBに恩恵を与える（第二表17参照）</p>	<p>Fは上接動詞の主体であり、Fの動作によつてBが恩恵をうける。またDがそのことをFにはたらきかけることによつて、BはDから恩恵をうける。さらに以上のことによつてAはBから恩恵を受けることになる。（第二表16参照）</p>	<p style="text-align: center;">右欄の傍線部分</p> <p>BがAに恩恵を与える（第二表15参照）</p>

以上ですべての連結についての検討を終えたことになる。このようにしてみると、第三章と第四章であげた二語の連結、すなわち二種の「してもらってもらう（してもらってくれる）および「してもらってやる」「してやってもらう（してやってくれる）」によって、すべての三語の連結が説明できると思う。またこれらの二語の基本的な連結をみれば、「くれる」には「やる・もらう・くれる」が下接しないことが説明できるように思われる。すなわち「してもらってやる」「してもらってもらう（してもらってくれる）」の連結では前にくる「もらう」を「くれる」にかえることはできないのであって、この場合の二つの恩恵の授受の関係のうち前にくる方はつねに恩恵を受ける側から表現されることを示している。したがって「くれる」は連結の最後以外にはあらわれないことになるのである。

<p style="text-align: center;">*</p> <p style="text-align: center;">してもらってもらってやる</p>	<p style="text-align: center;">*</p> <p style="text-align: center;">してもらってもらってもらう してもらってもらってくれる</p>
	
<p style="text-align: center;">(第二表19参照)</p>	<p style="text-align: center;">(第二表16・17参照)</p>

五

前章までに、「やる・もらう・くれる」の相互承接について述べたのであるが、この章ではそれに関連するいくつかの問題をとりあげることにする。

まず「してやる」「してもらう」「てくれる」の敬語形「て(さし)あげる」「ていただく」「てくださる」について考えてみる。

いうまでもなく、「恩恵を与えるもの」と「恩恵をうけるもの」と、敬語にあらわれる上位・下位とは別である。「恩恵を与えるもの」が上位・下位のいずれであることもできるし、「恩恵をうけるもの」も同じである。もし、敬語形をつかえば、「恩恵を与えるもの」と「恩恵をうけるもの」との間に上下関係が存在することをあらわすことができる。「して(さし)あげる」では「してやる」にくらべて「恩恵を与えるもの」と「恩恵をうけるもの」との間の上下のひらきが大きく、「恩恵を与えるもの」が下位、「恩恵をうけるもの」が上位であることをあらわす。逆に「てくれる」「てもらう」のかわりに「てくださる」「ていただく」を用いると、「恩恵を与えるもの」が上位に、「恩恵をうけるもの」が下位になり、それぞれ上下関係が存在することが示される。

二語の連結の場合には、それぞれの敬語形をつかうことによつていろいろな組み合わせをつくることができる。「てやってもらう」を例にとると、「てあげてもらう」「てやっていただく」「てあげていただく」の四通りが可能であるが、それは「てやってもらう」の「やる」と「もらう」の部分それぞれ別の恩恵の授受の関係をあらわしているから当然のことである。

三語の連結の場合の敬語形の問題は複雑である。先にものべたように、三語の連結で三語とも敬語形を用いるか、あるいは用いないものはほとんどないであろう。それにはいろいろな理由があるが（同音の繰り返しをさけるというだけの理由もあるだろう）、本稿ではそれをとらえることができなかつた。二語の場合についてのべた方法でおおまかにはとらえることができるのではないかという見当である。

「やる・もらう・くれる」の二語、特に三語の連結は文章語では用いられることが少ないのではないかと思われる。それは二・三語の連結によってあらわされる多様な恩恵の授受の関係を明示するための格助詞またはそれに相当するものがないために、一つの単文の中に恩恵の授受の関係を二つ三つと入れるのは無理だからであろう。そのため、文脈にたよる以外に理解する方法のない文章語ではつかわれることが少いようである。

以上、補助動詞「やる・もらう・くれる」の相互承接を中心とした問題について考えてきたのであるが、取り扱いは不十分な所がたいへん多い。それは今後の課題としてひとまずこの稿を終えることにする。

注

(1)

松下大三郎『改撰標準日本文法』三九四頁。

佐久間鼎『現代日本語の表現と語法』一九二頁。

金田一春彦『世界言語概説』下巻一七九頁。

鈴木重幸『文法教育』（むぎ書房）一六〇頁。

宮地裕「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について（『国語学』63集）なお宮地先生のこの論文では諸説が比較されている。

北原保雄「敬語の構文論的考察―動詞の敬語法とそのアスペクト―」（『佐伯梅友博士古稀記念 国語学論集』）。

豊田豊子「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」(「日本語学校論集」一号 東京外国語大学外国語学部付属日本語学校)

(2)

要素の分析については宮地裕先生が論じられており、本稿は基本的にそれによった。(注一の文献参照)

しかし「主者」とされたものを本稿では「上接動詞の主体」と用語をかえたことと、以下の記述を簡略にするため「話し手の立つ側」とされた要素を本稿では用いなかったことが異っている。

その他宮地先生から直接ご教示いただいたところが多い。

(文学部助手)